



再度山と修法ヶ池  
“ふるさとの山 六甲山の  
緑を育て 次世代に継承し  
ていく”

## 第105回テーマ： こうべ森の学校の 歩みと展望

### 講演内容

- 六甲山はハゲ山だった
- 市民、行政、企業、協働の森づくり
- 次世代にみどりをプレゼントする



講師：東郷 賢治さん プロフィール  
1936(昭和11)年神戸生まれ、75歳。少年の頃より再度山周辺をフィールドとする。36年間余り小学校、養護学校に勤務。1996年退職後、障害者福祉と取り組む。2002(平成14)年市民参加の森づくりに参加。2010年、「都市政策」1月号(都市問題研究会発行142号)に報告をまとめた。

実施日：平成23年12月17日(土)  
午後1時～3時30分  
場 所：六甲山地域福祉センター

### 六甲山は今年一番の冷え込み

今回から神戸市立六甲山地域福祉センターに会場を移します。早朝の六甲山は-8℃の寒さだったとのこと。快晴に恵まれ、10時のガイドハウスは0℃、ボランティア10名が集まりました。散策路の植生観察、調査区の観測、そして杉の人工林の測量を行いました。午後の市民セミナーに18名が参加し和やかな雰囲気で行われました。

### 「市民・企業・行政」協働の校長先生

講師の東郷 賢治さんは、「元校長だったから」と推されて「こうべ森の学校」の代表になられて4年になります。「私がひっくり返った時のピンチヒッターが3～4人いる。事務局も運営のことはやってくれる」、「私は疎いので、そらええやないか、と言うだけ」と、冗談めかして笑顔で話されました。

行政主導で始まり特定企業がスポンサーになり、自由参加の市民が実践する活動は、思惑や利害も輻輳しがちですが、「こうべ森の学校」は参画者それぞれの良さが相乗しています。自然体の東郷さんの持ち味が反映しています。

### 市民参加の森づくりの先駆事例

「忌憚のない議論」を求められたので期待に応えたいと前置きされ、子ども時代から馴染んでき再度山、修法ヶ原の様子、森林整備事務所との関係を説明されました。

冒頭は「六甲山はハゲ山だった」と題して、明治20年の陸軍測量部作成の地図を基にした再現図で、緑の林地の少なさを強調されました。そして、本多 静六林学博士の植林指導、さらに六甲山のレポート開発に触れて、六甲山の地質問題の危うさを指摘されました。図表や写真を使った簡明な解説で、治山治水の歴も辿ることができました。

続いて本題の「協働の森づくり」のお話しです。2002年の「六甲山緑化100周年」の市民懇話会で、市民、行政、企業が連携した森づくりが提言されました。神戸市

と伊藤ハムの提携で支援体制が整い、2003年に「こうべ森の学校」が発足しました。4年目にログハウスの建築に取り組んだことが契機になり、ボランティア活動が活況になりました。森の手入れの様々な活動が盛んで市民との交流も図る発展をしています。

そして「次世代にみどりをプレゼントする」で、地道な仕事の実態や、生物多様性の保全へのつながり、「繰り返す森に来る子どもを増やしたい」という願いを語られました。参加者は誠実さのこもった熱弁に共感しました。



森の手入れに向かう人たち

### こうべの森づくりの発信基地

市民、企業、行政、協働の森づくりが順調に確かな歩みをしていることを実感しました。今回は森づくりの同志という気持ちを味わいました。神戸市民から森の担い手が輩出する拠点になってほしいと期待します。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

### 高橋敬三さん、ありがとう

こうべ森の学校の産みの親は、元・森林整備事務所長の高橋 敬三さんです。六甲山の登山道の管理や、森林の保全整備に力を注がれました。当会が環境整備活動に導かれたのも、高橋さんのお陰です。第3回市民セミナーでは「六甲山の森づくり」を語っていただきました。大変残念なことに、平成23年10月23日に永眠されました。六甲山の森づくりの先達の偉業に感謝し、心からお礼を申し上げます。(堂馬)



講演時の高橋さん

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

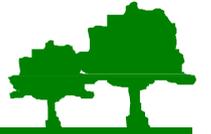
後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

大阪コミュニティファンド(東洋ゴムグループ環境保護基金)、イオン環境財団、コープこうべ環境保護基金



# 第105回テーマ：こうべ森の学校の歩みと展望



## 第105回市民セミナーの流れ

### 市民セミナー

1. あいさつ：13:00~13:15
2. 講演：13:15~14:15
3. 休憩：14:15~14:30
4. 質疑応答：14:30~15:20

### 講演

- 六甲山はハゲ山だった
- 市民、行政、企業、協働の森づくり
- 次世代にみどりをプレゼントする



討論風景

## 講演の挨拶（東郷 賢治さん）

こうべ森の学校では市民が森づくりをしています。ホームグラウンドは再度公園の修法ヶ原周辺。戦後は進駐軍の保養所で、私のガキの頃の遊び場でした。この素晴らしい自然を後世に残したいという想いで森づくりをしています。



東郷さん

## 講演内容

### 1. 六甲山はハゲ山だった

#### ■六甲山の背骨はぼろぼろだった

六甲山の緑は徹底的に収奪された。明治14年、牧野富太郎博士が神戸港で「六甲山には雪が降っているのか」と言った逸話がある。明治20年の参謀本部測量局の地図を基に神戸大学教育研究センターの松下のり子さんが再現した図をみても、六甲山脊梁のほとんどが荒廃岩石崩落山（黄土色に黒点部）となって林地（緑部）がほとんどない。



六甲山ハゲ山再現地図

#### ■本多静六林学博士が植林を指導した

人口増による都市化で水道設備が必要になり、明治33年布引ダムを造った。しかし、上流の再度山は禿山でダムが用をなさない。当時の坪野神戸市長とドイツ留学時にご縁があった、本多静六東京帝大教授が大々的な植林を提言し指導した。彼は街のなかに森をつくるという発想をもって日比谷公園などを設計した。明治36年(1903)に砂防林事業に取りかかり、神戸の植林の事始となった。

#### ■六甲山の地質問題は残されたまま

居留地外国人が避暑地開発し、後に阪神電鉄が力をいれ「関西の軽井沢」として売り出したことで六甲山は飛躍的に開発された。ゴルフ場、ケーブル、登山道、別荘、後に会社の保養所があちこちに建ち、はなやかな時代を経た。

開発のかけで六甲山のかかえる地質問題は解決

されず、山麓各地で大きな水害を再々起した。典型は昭和13年の阪神大水害で、神戸も大被害があった。私はそのとき2歳。兵庫区にいたがその水害で死にそこなった人間だ。

### 2. 市民、行政、企業、協働の森づくり

#### ■行政・企業の支援体制に市民の参画

六甲山緑化100年後の2002年、神戸市がこれから100年の六甲山を考える市民懇話会を立ち上げ、市民、行政、企業とで連携した森づくりを進めようとの提言があった。それを受けて2003年に前身の会が発足した。市の公募に応じて、社会貢献活動を考えていた伊藤ハムが資金援助で連携してくれた。こうして市民への支援体制ができ、同年秋に「こうべ森の学校」が発足した。

仕事は主にヒノキの間伐、サクラ等の植林、ひ弱なつつじ等を散髪して再生することだ。伐採には専門技術や安全管理も重要で、市の森林整備事務所や、後に養父市の森林組合の指導とノウハウの提供も受けられた。市民、企業、行政の3つの団体の持てる力を出し合い仕事を進めてきた。

#### ■ログハウスづくりが市民活動を成長させた

最初の3年間は森林整備事務所に「おんぶにだっこ」だったが、だんだんスタッフの役割をもち運営を自主的という方向になってきた。成長のインパクトとなった事業がログハウスの建設だ。企画や資金こそ提供を受けたが、2年7か月でシルバーの我々がそれまでに培った知識、経験、技を結集させてほとんど自前で作り上げた。

仕事をする中で意識が高まってきて、月1回の例会だけでなく週3日やろうという自主的な動きがめばえてきた。拠点ができたことが活動にプラスになった。森の手入れという



建築中のログハウス

共通の活動をすることによって、新たな絆が生まれ、お互いに学ぶことができた。

#### ■市民と交流し森の再生を訴える

公園に来る市民に、こういう森の手入れによって森が生き返るということを知ってもらいたい。このため、3、4年前から森の文化祭を行っている。六甲山に関りのある企業やボランティア団体などが集まって発表等をやる。スポンサーの伊藤

ハムは社員がずいぶん通常の活動にも参加し、仲間として一緒に活動できるようになった。

ログハウスを拠点に出来てからハイキングに来た市民との対話もできるようになった。サクラを300本ほど植えた。根づいた苗木を剪定ハサミで切ったり、せっかく出てきたササユリを根こそぎ抜いたりする輩もいるのは事実だが、これからも森の再生の重要性を訴え市民を啓発したい。

### 3. 次世代にみどりをプレゼントする

#### ■伐っては植える地味な仕事を続ける

森の手入れ班は主にヒノキや雑木の間伐で太陽光が林床まで届く森にしていく。日かげでひよろひよろと育ったツツジを手入れすると、4～5年後には立派な花芽をつける。苗造り班はドングリやサクランボを拾って、3年から5年もかけて苗木を育てる。40～50cmになって初めて山に帰することができる。地味な仕事だが、100年先を考えた時にこの仕事は値うちを持つ。



ヒノキの間伐

#### ■20haの手入れは生物多様性保全の一環

手入れが終わった所は8年間で約20ha、述べ人数は来年2月には1万人になるはず。自然観察班は伐った後どんな植物が生えてくるかを地道に調査する。伐採後5年ほどでササユリが思わぬ所からでてきた。これこそ太陽の恵みだ。3、4年前から生物多様性の重要性が言われているが、我々の活動も生物多様性へのひとつの試みと思う。

#### ■将来を託せる子どもを育成したい

工作班は伐採した木を「森の恵み」とし、街に出かけ、子供たちの木工教室を開いた。人気はあったが、「森で拾った松ぼっくり」で工作する意義を重視して、森に来て活動してもらうことを試みた。植樹は好評で、自分で植えた樹がどうなってるかと、再訪してくる。繰り返し森に足を運んでくれる子どもが増えるのを願っている。

中学生のトライやるウィークとして、教育委員会に声をかけたが、まだ1校しかない。5日間いろんな山の体験をして帰ってもらうが、よい経験だったと作文は送ってくれるものの、ボランティアとしてはこない。街の子が街の中だけで大きくなったらいびつな人間にならないか。せっかく山に来てサッカーなど運動場と同じ遊びをする。先生でさえドングリのある場所に来て「ドングリを探そう」と言わない。森の恵みで学ぶという目的を持って来て、山のお土産を持ち帰ってほしい。



トライやるウィーク

### 質疑応答

#### ■森づくりスタッフの養成機関にならないの？

今年のスタッフ研修のカリキュラムは、安全や技術講習3回、ブナの森見学会1回、救命救急AED講習会1回をやっているが、養成研修カリキュラムまでに至っていない。

#### ■NPO法人化も考えているか？

若い会員にもその意見があるが、さしあたっての急務であるという意識にはなっていない。

### まとめ(東郷さん)

市民、企業、行政の3つの団体がそれぞれの持つものを出し合ってスクラムを組んで仕事を進めたい。今のところは歯車がかみ合っていると自画自賛している。見ず知らずで生きてきた人たちが、の森の手入れという活動を通して新たな絆が生まれる。そしてお互いに学ぶことができるということを大切にしなければならぬと思う。

### 事務局より

ログハウス建築を契機に自主的な市民活動に変化するなど、森づくりを通して市民としての成長があったというお話しに感銘を受けた。我々も「まちっ子の森」づくりを進めて、参加者とともに、森づくりのできる市民としても成長したい。

#### ◆参考・配布資料など

- ・レジメ&パワーポイント：「こうべ森の学校」
- ・パンフ：森を育て森にあそぶ こうべ森の学校
- ・会報：こうべ森の学校だより
- ・資料：『本多静六自伝 体験八十五年』／実業之日本社『都市政策142号』／神戸市都市問題研究所『六甲山の100年そしてこれからの100年』／神戸市

東郷 賢治：とうごう けんじ  
 こうべ森の学校 代表 (※HPアドレスは下段)  
 〒651-1111  
 神戸市北区鈴蘭台北町5丁目17-18  
 電話：078-591-1673 FAX：同左  
 E-Mail：kstogo@sky.bbexcite.jp  
<http://www.k5dion.ne.jp/%7Ekoobemori/index.htm>

#### ◆参加者の声

- ・六甲山全山の背骨が荒廃していたことに驚いた。
- ・活動が着実に進歩し、多岐にわたっている。
- ・市民参加の森づくりの実態と楽しみがわかった。
- ・伐採地を市民がゆったり憩える場所にしてほしい。
- ・修法ヶ原が遠足のメッカとして復活したらいい。
- ・一般市民を森づくりに引き寄せるのが大きな課題。

#### ◆参加者：18名(50音順・敬称略)

泉 美代子 板野 武一 岡 敏明 岡井 敏博  
 岡本 正美 岡谷 恒雄 久保 順一 邵 欣欣  
 田邊 征三 茶屋道利広 寺垣 耕平 東郷 賢治  
 徳見 健一 堂馬 英二 松井 光利 村上 定広  
 八木 浄 柳田千恵子